

この度、栃木県では、県内におけるヤングケアラーの実態について把握し、ヤングケアラー及びその家庭への支援策並びに支援体制を確立する際の基礎資料とするとともに、調査を通じてヤングケアラーに関する社会的認知度の向上及び理解促進を図ることを目的として、本調査を実施しました。

## 目次

### テーマ

1

### ヤングケアラーの実態・特徴を見る

- お世話をしている家族の有無
- お世話の頻度
- お世話に費やす時間
- お世話を必要としている家族
- お世話の内容
- 学校への通学状況
- 家族構成

### テーマ

2

### ヤングケアラーの意識を見る

- ヤングケアラーの自覚
- 生活満足度
- 孤独感
- お世話をしているためにやりたいけれどできないこと

### テーマ

3

### ヤングケアラーの支援体制について考える

- お世話について相談した経験
- お世話について相談したことがない理由
- 相談する手段
- お世話の悩みを相談されたらどのような対応をとるか
- 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援
- 学校の「ヤングケアラー」という概念の認識
- 学校で「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無
- 学校で「ヤングケアラー」の定義に該当する子どもがいるか分からない理由
- ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

## 【調査の概要】

調査対象	・県内の小学6年生、中学2年生、高校2年生：約 52,000 人 ・県内の公立及び私立小中高校：約 600 校
回収数	・県内の小学6年生、中学2年生、高校2年生：約 41,000 人 ・県内の公立及び私立小中高校：約 400 校
調査期間	・児童・生徒向け：令和4（2022）年7月5日から7月31日まで ・学校向け：令和4（2022）年7月6日から8月19日まで
実施方法	・タブレット等を用いた Web 上での回答を基本とし、学級時間やロングホームルーム等、学校時間を活用して実施 ・調査の実施に先立ち、教員からヤングケアラーに関する啓発を実施

## 【概要版の見方】

概要版では、一部の設問について、以下のとおり実施された国の調査結果と比較をしている。

### ○厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和3年3月）

調査対象	・全国の公立中学校から層化無作為抽出された 1,000 校に在籍する中学2年生 全国の公立高等学校（全日制）から層化無作為抽出された 350 校に在籍する高校2年生 各都道府県から1校ずつ無作為抽出された公立の定時制高校、通信制高校に在籍する高校2年生相当の生徒：約 168,000 人 ・全国の公立中学校 1,000 校、公立高等学校（全日制）350 校を層化無作為抽出、公立の定時制高校、通信制高校をそれぞれ各都道府県から1校ずつ無作為抽出：約 1,440 校
回収数	・全国の中学2年生、高校2年生、高校2年生相当：約 13,800 人 ・全国の公立中学校、高等学校（全日制、定時制、通信制）：約 1,000 校
調査期間	・生徒向け：令和2（2020）年12月21日から令和3（2021）年1月31日 ※通信制高校：令和3（2021）年1月26日から令和3（2021）年2月28日 ・学校向け：令和2（2020）年12月から令和3（2021）年2月
実施方法	・生徒向け：学校を通じて調査回答フォームのQRコード、URLを記載した調査概要を配付し、Web上で回答・回収 ・学校向け：郵送配布、郵送回収

### ○厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和4年3月）

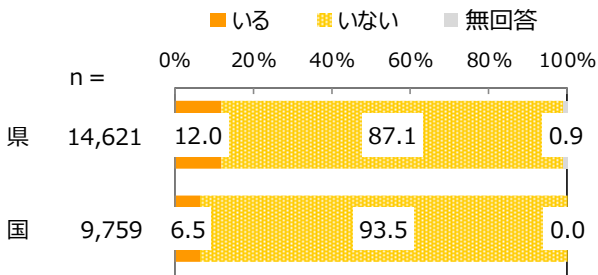
調査対象	・全国の小学校から層化無作為抽出された 350 校に在籍する小学6年生：約 24,500 人 ・全国の小学校から層化無作為抽出：約 350 校
回収数	・全国の小学6年生：約 9,800 人 ・全国の小学校：約 260 校
調査期間	・生徒向け：令和4（2022）年1月 ・学校向け：令和4（2022）年1月
実施方法	・生徒向け：学校を通じて調査票を児童に配布、児童は原則自宅に持ち帰り回答の上郵送回収 ・学校向け：郵送配布、郵送回収

## ・お世話をしている家族が「いる」割合は国と比較して高い傾向

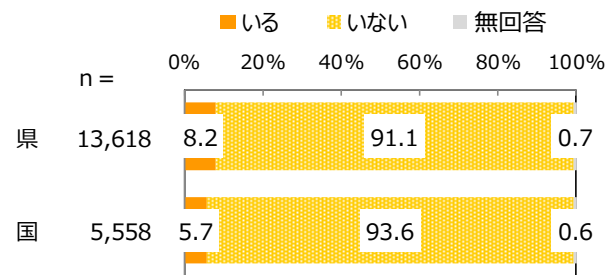
- お世話をしている家族が「いる」割合は、国の調査と比較して全体的に高い傾向にある。
- しかし、お世話をしている頻度は、国の調査と比較して少ない傾向にある。

### お世話をしている家族の有無〔単数回答〕

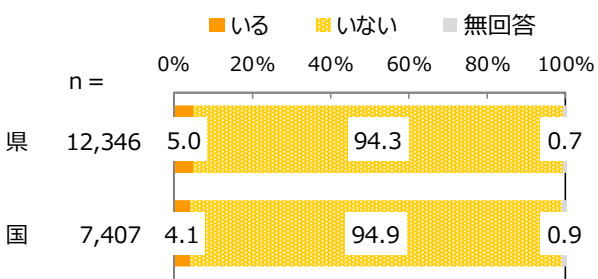
#### ①小学6年生



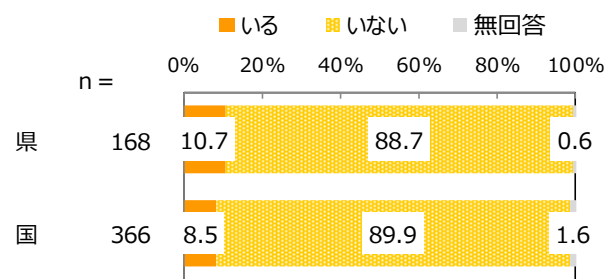
#### ②中学2年生



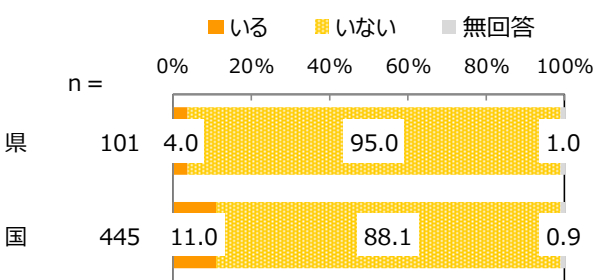
#### ③全日制高校2年生



#### ④定時制高校2年生相当

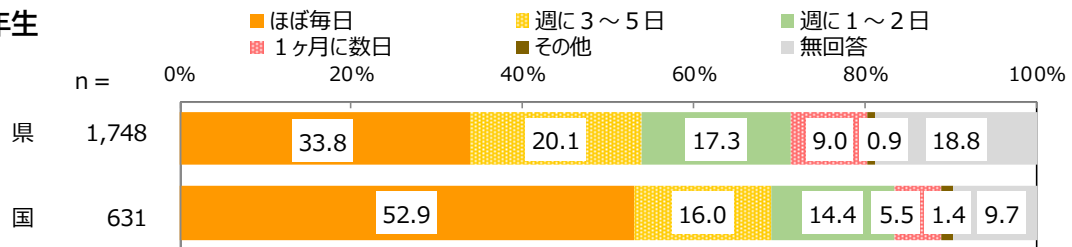


#### ⑤通信制高校2年生

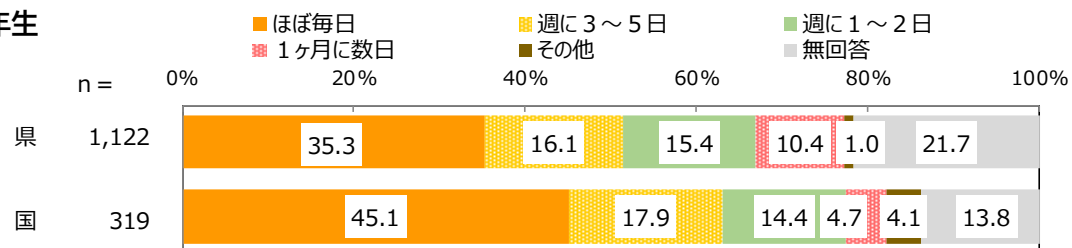


## お世話の頻度〔単数回答〕

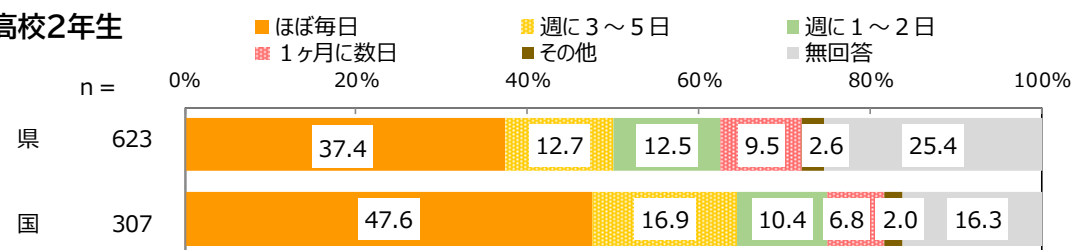
### ①小学6年生



### ②中学2年生

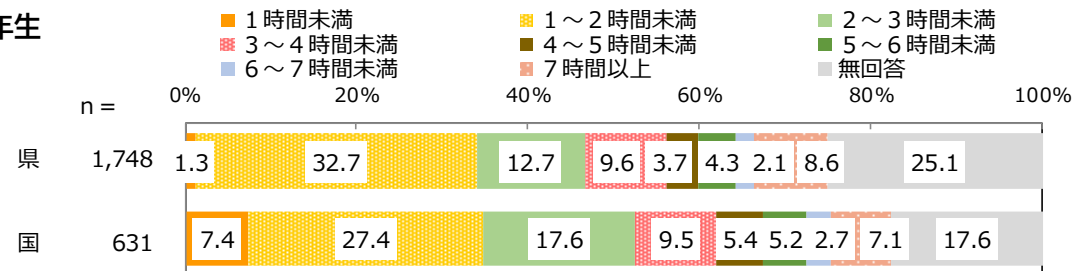


### ③全日制高校2年生

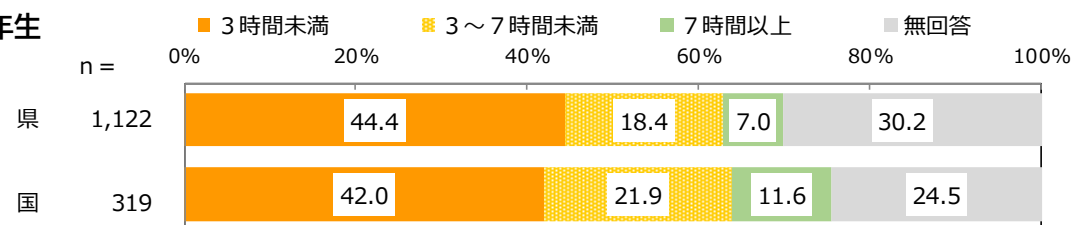


## 平日1日あたりにお世話に費やす時間〔単数回答〕

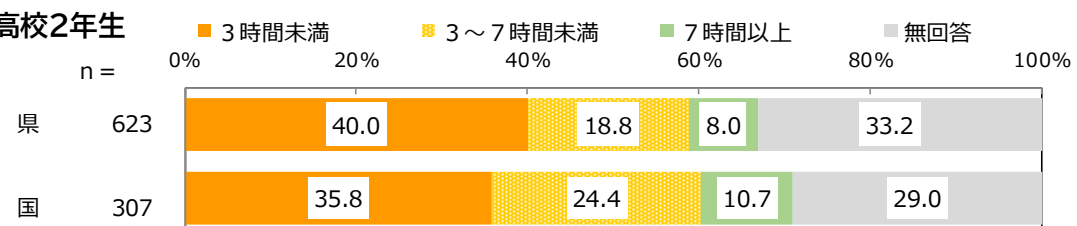
### ①小学6年生



### ②中学2年生



### ③全日制高校2年生



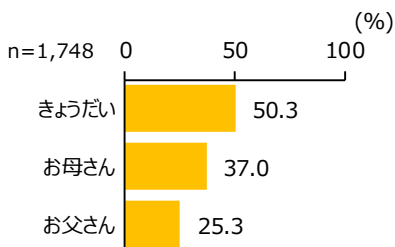
(注) 時間の区分は国の調査にあわせて設定している。

## ・お世話をしている家族は「きょうだい」が多く、お世話の頻度が高い 児童・生徒やお世話の時間が長い児童・生徒で特に多い

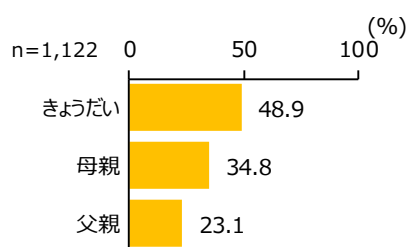
- お世話を必要としている家族は、「きょうだい」が多い。
- 特に、お世話の頻度が「ほぼ毎日」の児童・生徒、平日1日あたりにお世話に費やす時間が3時間以上の児童・生徒で「きょうだい」が多くなっている。

### お世話を必要としている家族（上位3項目）〔複数回答〕

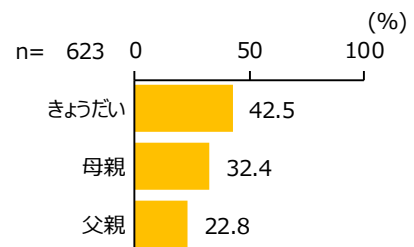
#### ①小学6年生



#### ②中学2年生



#### ③全日制高校2年生



#### (お世話の頻度)ほぼ毎日の児童

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. きょうだい | 71.4% |
| 2. お母さん  | 33.0% |
| 3. お父さん  | 24.4% |

n=591

#### (お世話の頻度)ほぼ毎日の生徒

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. きょうだい | 68.9% |
| 2. 母親    | 29.0% |
| 3. 父親    | 19.7% |

n=396

#### (お世話の頻度)ほぼ毎日の生徒

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. きょうだい | 62.7% |
| 2. 母親    | 23.6% |
| 3. 祖母    | 20.2% |

n=233

#### (お世話の時間)3-7 時間の児童

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. きょうだい | 72.3% |
| 2. お母さん  | 28.0% |
| 3. お父さん  | 20.1% |

n=343

#### (お世話の時間)3-7 時間の生徒

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. きょうだい | 71.8% |
| 2. 母親    | 27.2% |
| 3. 祖母    | 16.5% |

n=206

#### (お世話の時間)3-7 時間の生徒

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. きょうだい | 62.4% |
| 2. 母親    | 28.2% |
| 3. 父親、祖母 | 17.1% |

n=117

#### (お世話の時間)7 時間以上の児童

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. きょうだい | 66.2% |
| 2. お母さん  | 36.4% |
| 3. お父さん  | 22.5% |

n=151

#### (お世話の時間)7 時間以上の生徒

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. きょうだい | 65.8% |
| 2. 母親、父親 | 25.3% |

n=79

#### (お世話の時間)7 時間以上の生徒

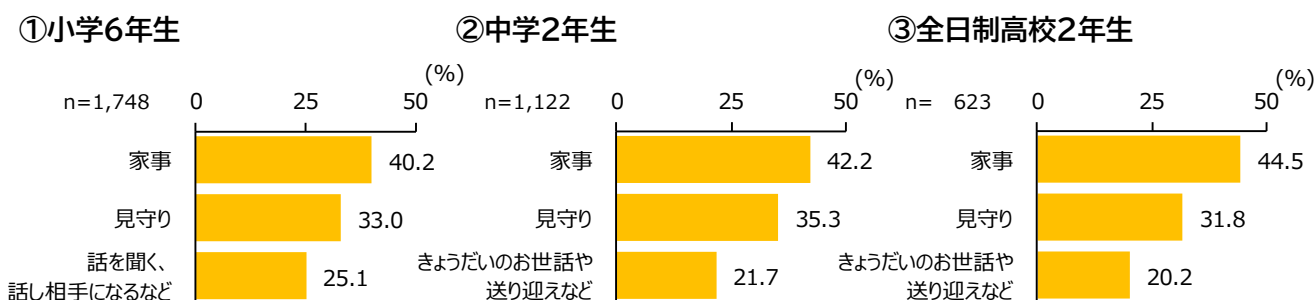
- |          |       |
|----------|-------|
| 1. きょうだい | 48.0% |
| 2. 祖母    | 26.0% |
| 3. 母親    | 18.0% |

n=50

## ・お世話の内容は「家事」が全体で多いが、お世話の時間が長い児童・生徒は「見守り」が多い

- お世話の内容は、全体でみると「家事」が多い。
- 一方、平日1日あたりにお世話に費やす時間が3時間以上の児童・生徒で「見守り」が多くなっている。

### お世話の内容（上位3項目）〔複数回答〕



#### (お世話の頻度)ほぼ毎日の児童

- 見守り 45.3%
- 家事 43.8%
- 話を聞く、話し相手になるなど 32.5%

n=591

#### (お世話の頻度)ほぼ毎日の生徒

- 家事 49.0%
- 見守り 47.2%
- きょうだいのお世話や送り迎えなど 38.9%

n=396

#### (お世話の頻度)ほぼ毎日の生徒

- 家事 58.4%
- 見守り 48.1%
- きょうだいのお世話や送り迎えなど 37.3%

n=233

#### (お世話の時間)3-7 時間の児童

- 見守り 53.9%
- 家事 43.4%
- 話を聞く、話し相手になるなど 35.3%

n=343

#### (お世話の時間)3-7 時間の生徒

- 見守り 54.4%
- 家事 52.4%
- きょうだいのお世話や送り迎えなど 41.7%

n=206

#### (お世話の時間)3-7 時間の生徒

- 家事 59.0%
- 見守り 57.3%
- きょうだいのお世話や送り迎えなど 37.6%

n=117

#### (お世話の時間)7 時間以上の児童

- 見守り 51.7%
- 家事 48.3%
- 話を聞く、話し相手になるなど 36.4%

n=151

#### (お世話の時間)7 時間以上の生徒

- 見守り 53.2%
- 家事 50.6%
- きょうだいのお世話や送り迎えなど 48.1%

n=79

#### (お世話の時間)7 時間以上の生徒

- 見守り 60.0%
- 家事 54.0%
- きょうだいのお世話や送り迎えなど 42.0%

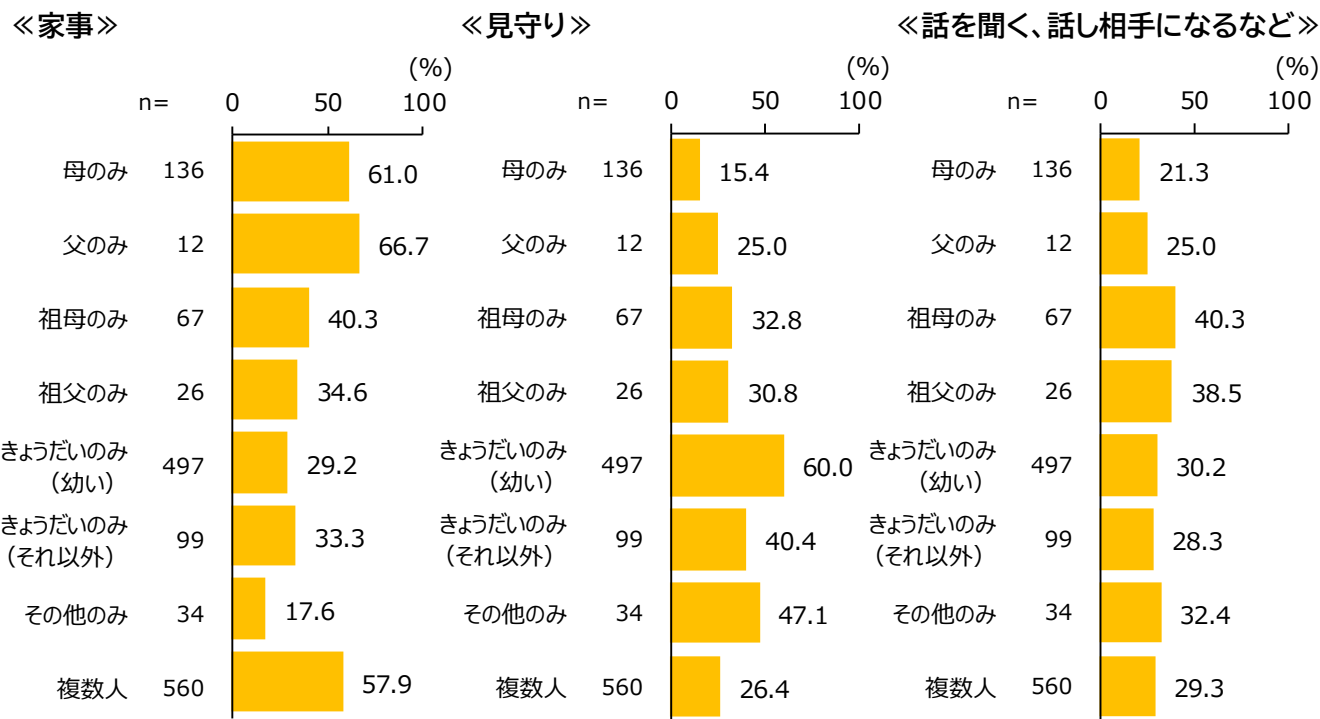
n=50

・「家事」をしている児童・生徒は母のみ、または複数人のお世話をしている場合が多く、「見守り」をしている児童・生徒はきょうだいのみのお世話をしている場合が多い

- 「家事」をしている児童・生徒は、“母のみ”、“複数人”で多く、いずれも半数以上となっている。
- 「見守り」は“きょうだいのみ(幼い)”、“きょうだいのみ(それ以外)”で多く、概ね半数以上となっている。中学2年生では“祖母のみ”も半数以上となっている。

お世話の内容（上位3項目）・お世話を必要としている家族別〔複数回答〕

①小学6年生



(注) nが30を下回るものについては、参考として図示するに留め、文中では言及をしない。

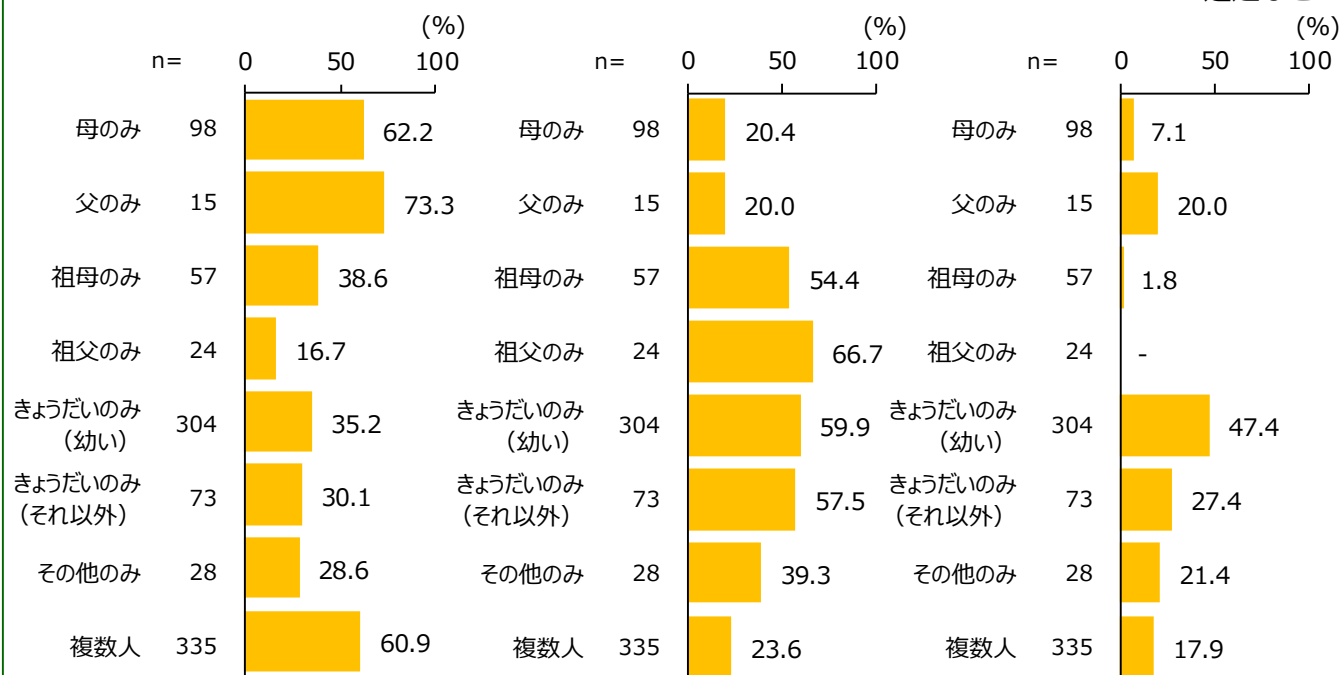
お世話の内容×お世話を必要としている家族（上位3項目）〔複数回答〕

②中学2年生

《家事》

《見守り》

《きょうだいの世話や保育所等へ送迎など》

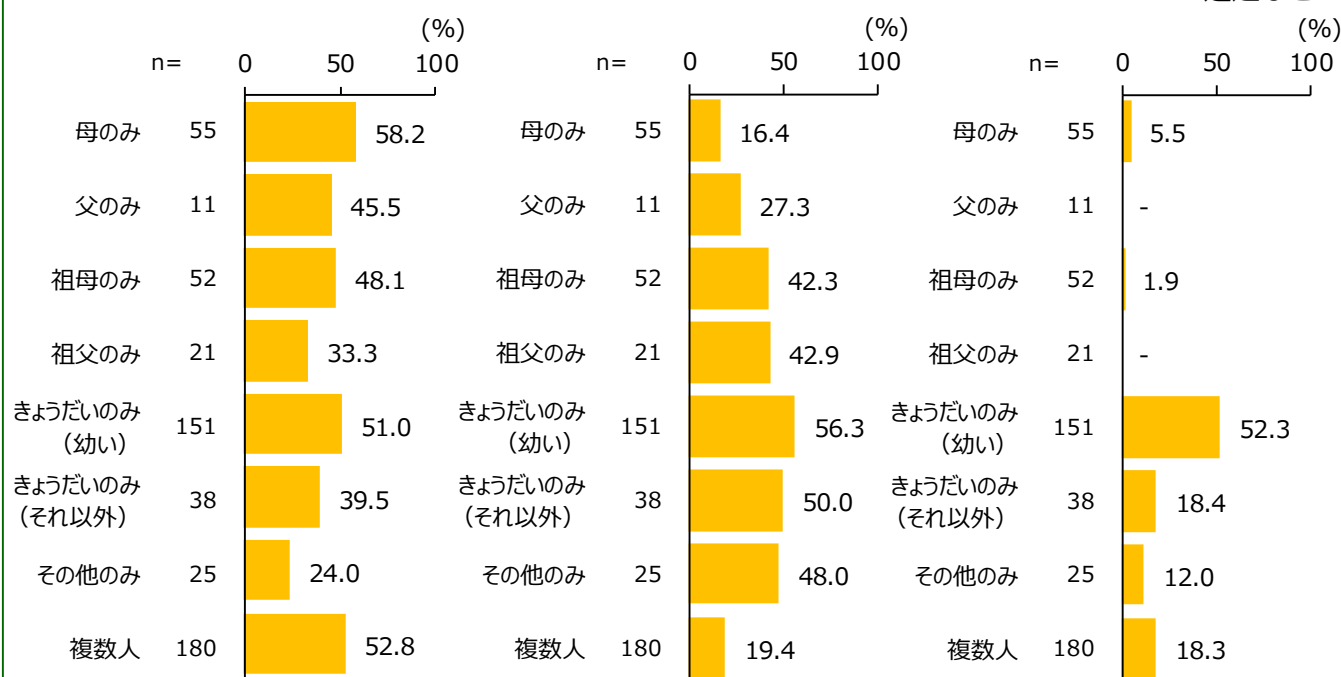


③全日制高校2年生

《家事》

《見守り》

《きょうだいの世話や保育所等へ送迎など》



(注) nが30を下回るものについては、参考として図示するに留め、文中では言及をしない。

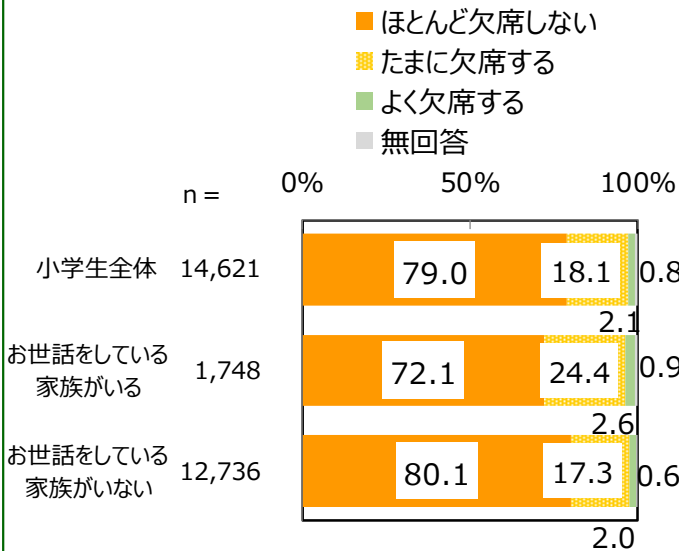


## ・お世話をしている家族がいる児童・生徒は、欠席や遅刻・早退をする頻度が多い傾向にある

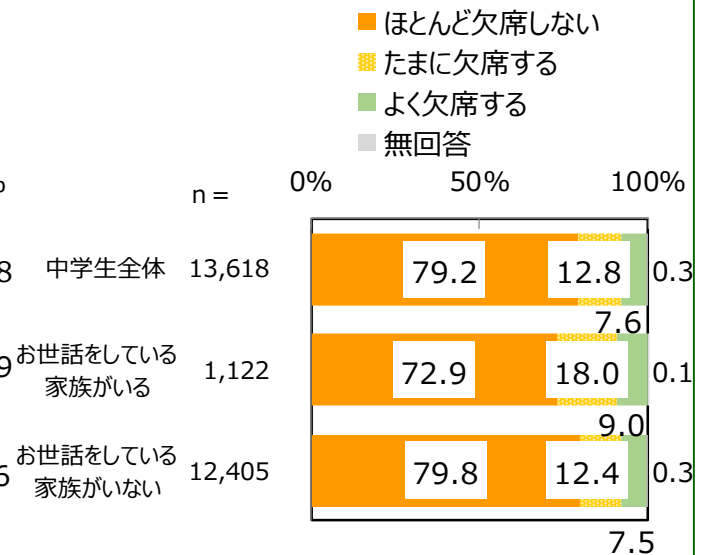
- 出席状況は、お世話をしている家族の有無に関わらず、「ほとんど欠席しない」の割合が高いが、お世話をしている家族がいる児童・生徒が欠席をする頻度は高くなっている。
- 遅刻や早退の状況も、お世話をしている家族の有無に関わらず、「ほとんどしない」の割合が高いが、お世話をしている家族がいる児童・生徒が遅刻や早退をする頻度は高くなっている。

### 学校への通学状況・出席状況〔単数回答〕

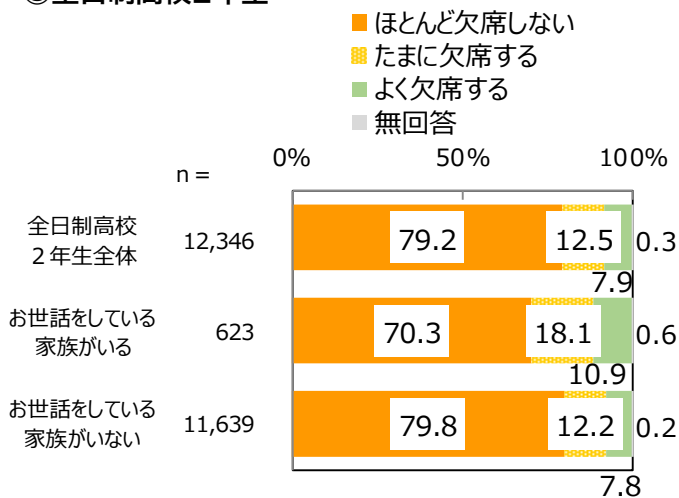
#### ①小学6年生



#### ②中学2年生



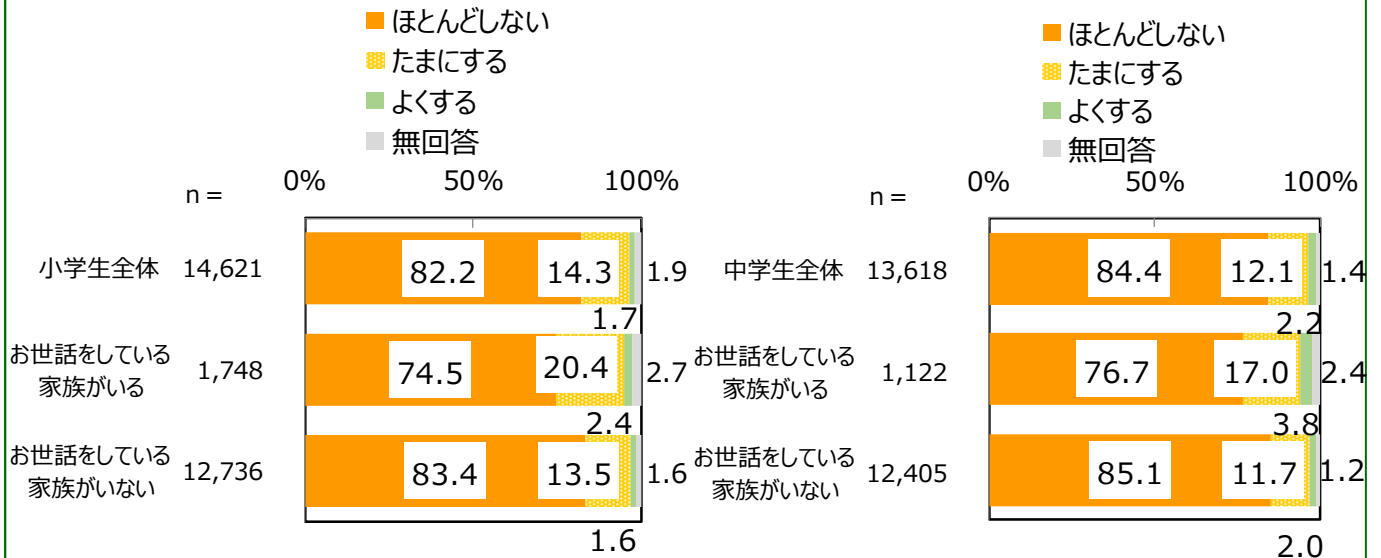
#### ③全日制高校2年生



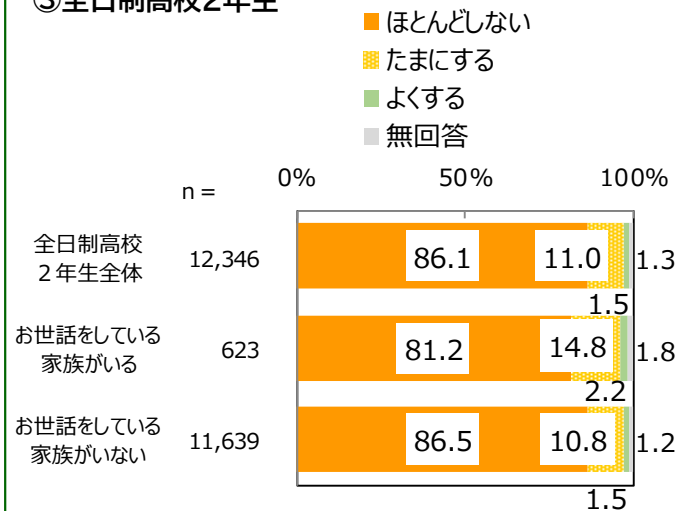
## 学校への通学状況・遅刻や早退の状況〔単数回答〕

### ①小学6年生

### ②中学2年生



### ③全日制高校2年生

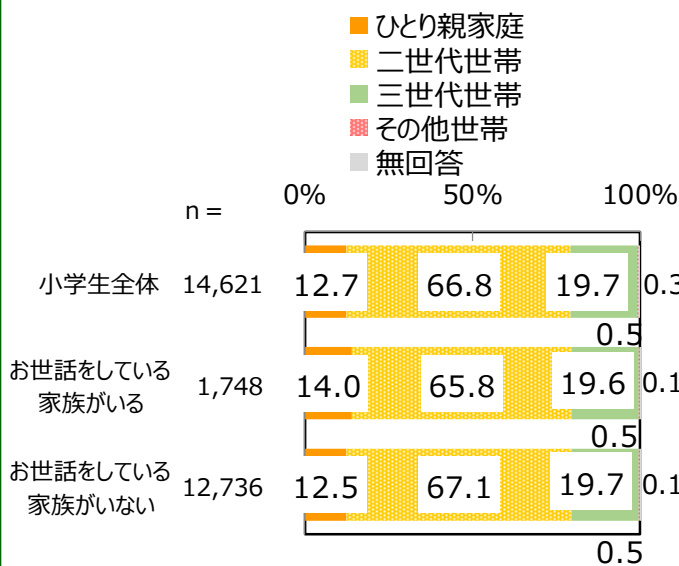


## ・お世話をしている家族がいる生徒の家族構成は、ひとり親家庭、三世代世帯がやや多い傾向

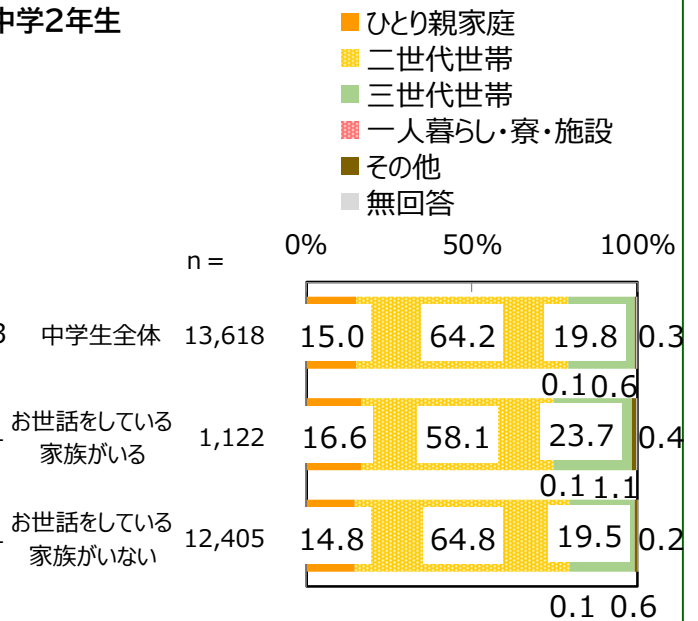
●家族構成は、小学6年生ではお世話をしている家族の有無で大きな差異はみられないが、中学2年生、全日制高校2年生でお世話をしている家族がいる生徒は、「ひとり親家庭」、「三世代世帯」の割合がやや高くなっている。

### ヤングケアラーの家族構成〔単数回答〕

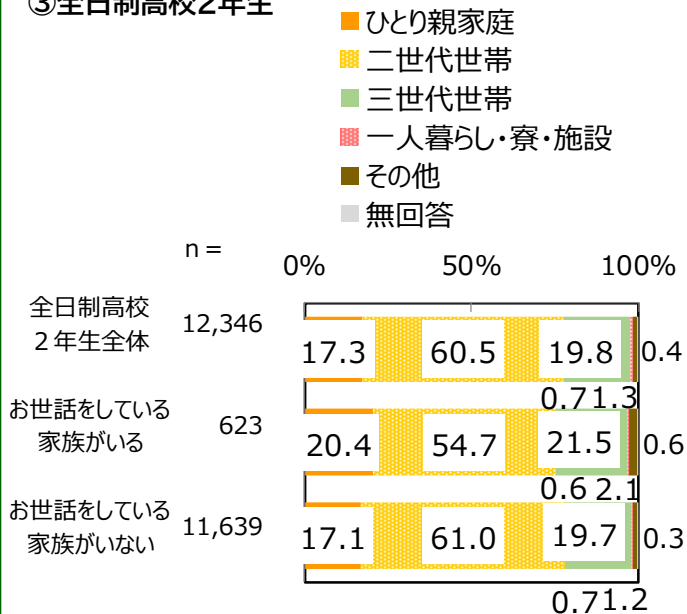
#### ①小学6年生



#### ②中学2年生



#### ③全日制高校2年生

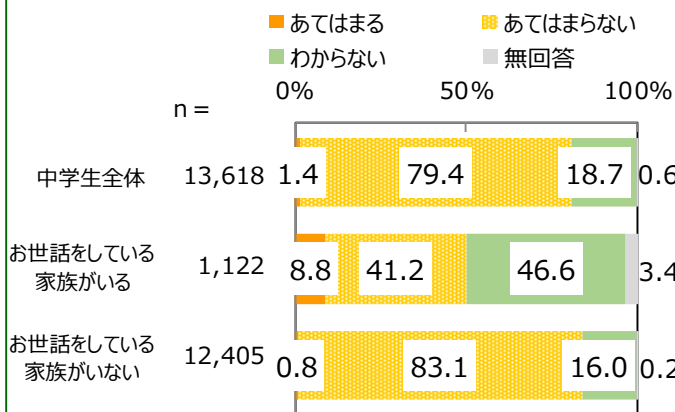


## ・お世話をしている家族がいる生徒で自身が「ヤングケアラー」にあてはまると思っている生徒は 1 割前後

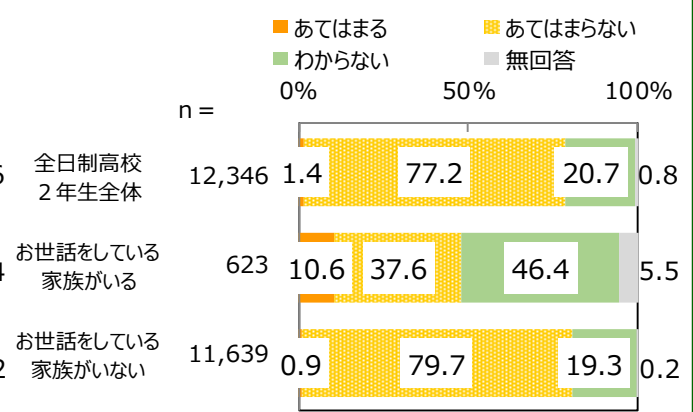
- ヤングケアラーの自覚は、お世話を必要としている家族がいる生徒で「あてはまる」が 10% 前後となっている。また、「わからない」が 40% 台となっている。
- お世話を必要としている家族がいる生徒で「あてはまる」と思っている割合は、国の調査と比較して、中学2年生で 7.5 ポイント、全日制高校2年生で 4.4 ポイント低くなっている。

### ヤングケアラーの自覚〔単数回答〕

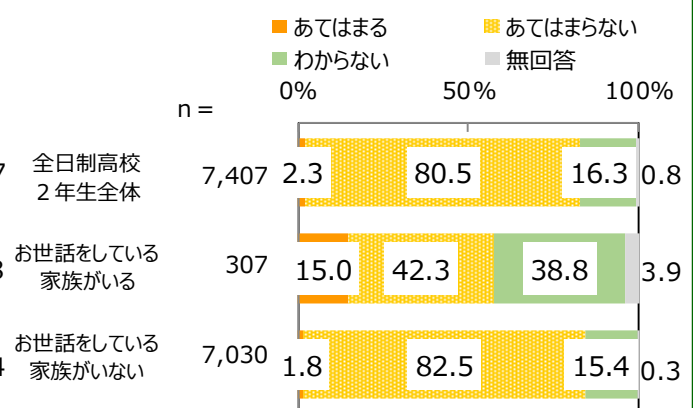
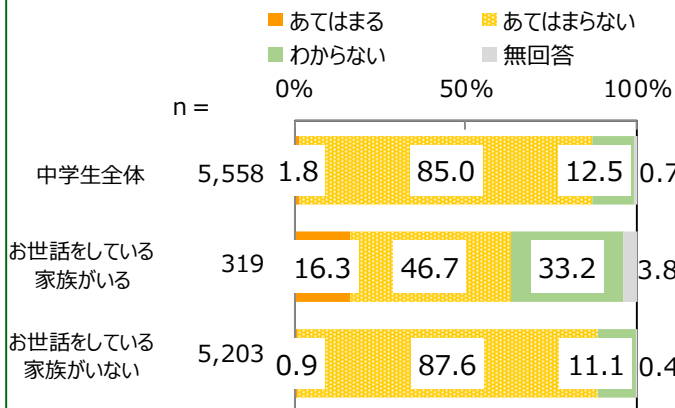
#### ① 中学2年生



#### ② 全日制高校2年生



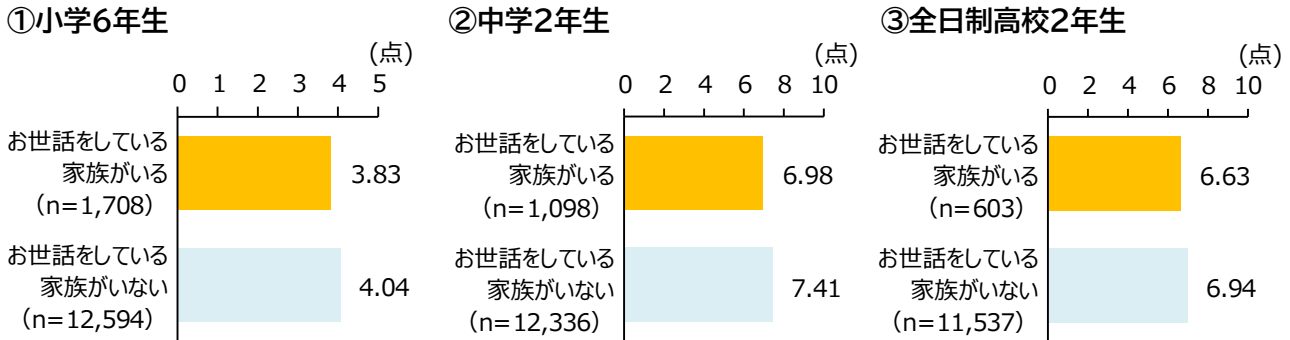
### 《国の調査結果》



## ・お世話をしている家族がいる児童・生徒は、 生活満足度がやや低い

●生活満足度は、お世話をしている家族がいる児童・生徒でやや満足度が低くなっている。

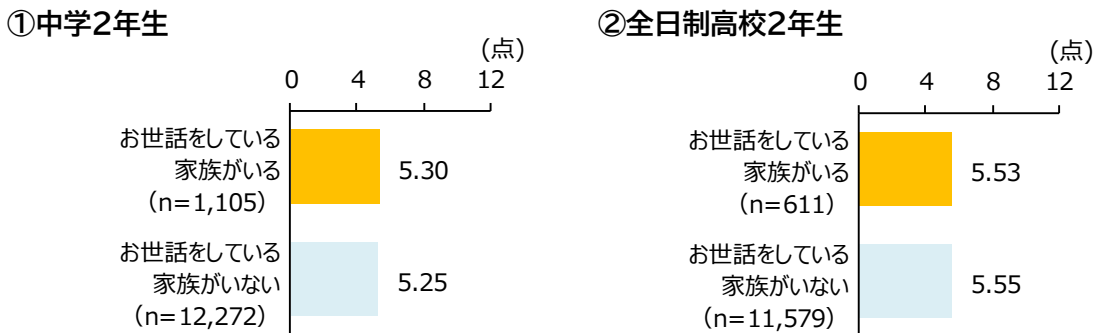
生活満足度（平均点）〔単数回答〕 ※小学生：5点満点、中高生：10点満点



## ・お世話をしている家族の有無で孤独感に大きな差はみられない

●孤独感は、お世話をしている家族の有無で大きな差異はみられない。

孤独感（平均点）〔単数回答〕 ※最大12点 合計スコアが高いほど孤独感が高い

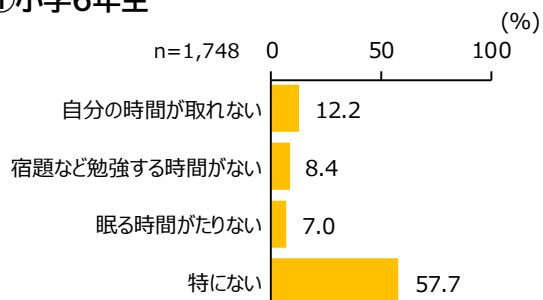


・お世話をしているためにやりたいけれどできないことは「自分の時間が取れない」が年齢に関わらず 1 割超え

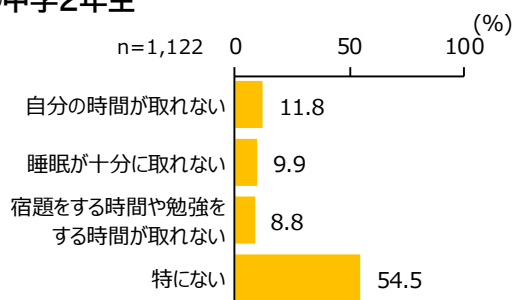
- お世話をしているためにやりたいけれどできないことは、「特にない」が半数前後で多くなっている。
- 具体的な内容を見ると、年齢に関わらず、「自分の時間が取れない」が多くなっている。

お世話をしているためにやりたいけれどできないこと（上位3項目+「特にない」）【複数回答】

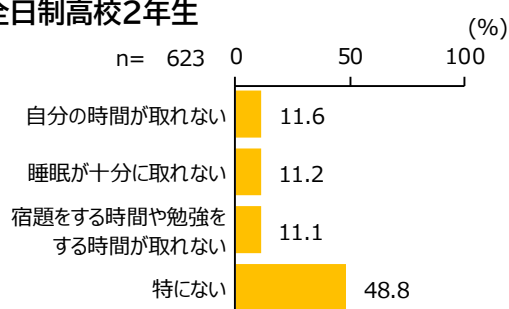
①小学6年生



②中学2年生



③全日制高校2年生

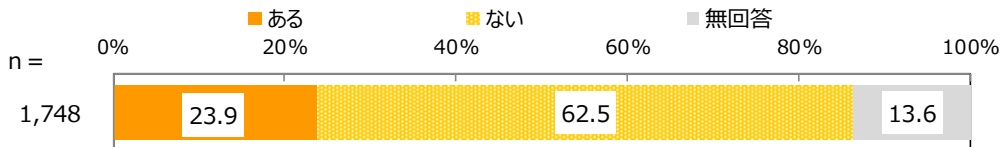


## ・お世話について相談した経験は「ない」が6割台

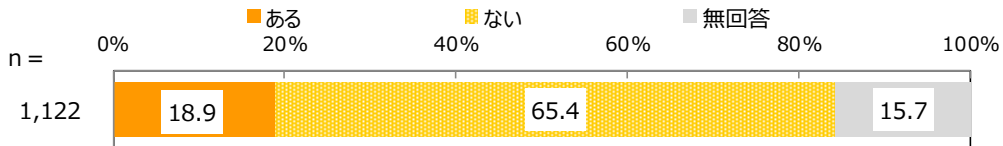
- お世話について相談した経験は、「ない」と回答した児童・生徒が60%台となっている。相談したことがない理由は、「相談するほどの悩みではないから」が多い。

### お世話について相談した経験〔単数回答〕

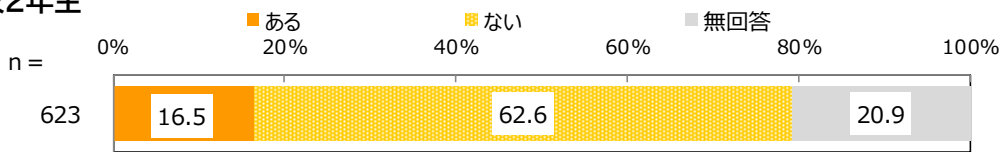
#### ①小学6年生



#### ②中学2年生

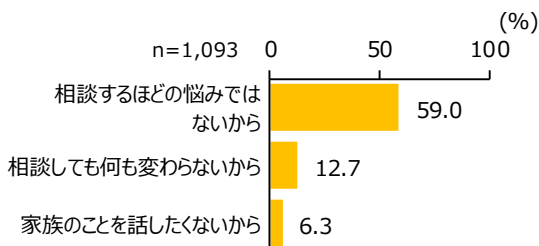


#### ③全日制高校2年生

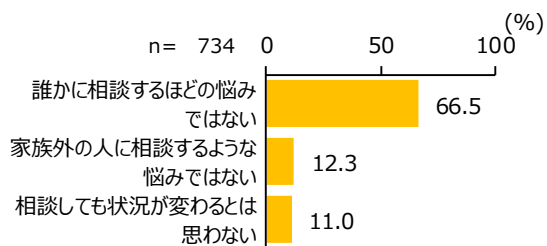


### お世話について相談したことがない理由（上位3項目）〔複数回答〕

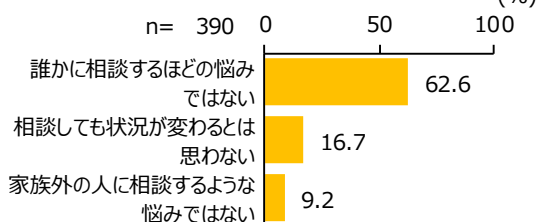
#### ①小学6年生



#### ②中学2年生



#### ③全日制高校2年生

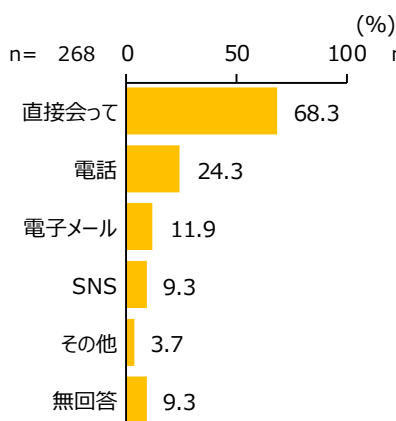


・相談する手段の希望は「直接会って」が7割前後

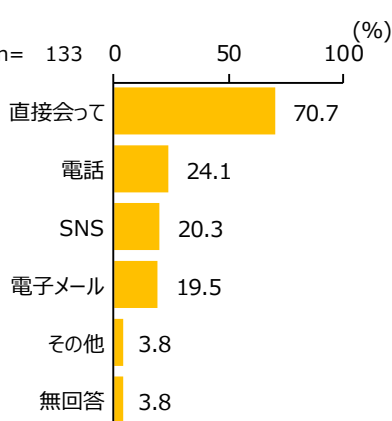
- 相談する手段の希望は、年齢に関わらず、「直接会って」が多い。
- お世話の悩みを相談されたらどのような対応をとるかでは、「相手の話を最後までしっかり聞く」が多い。

相談する手段の希望〔複数回答〕

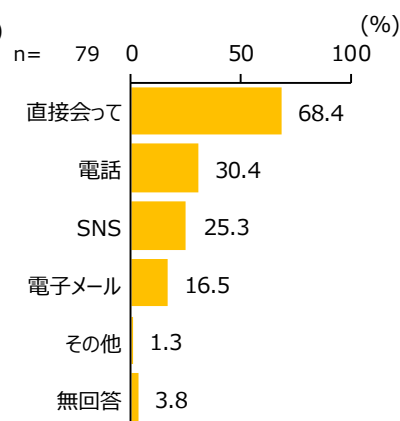
①小学6年生



②中学2年生

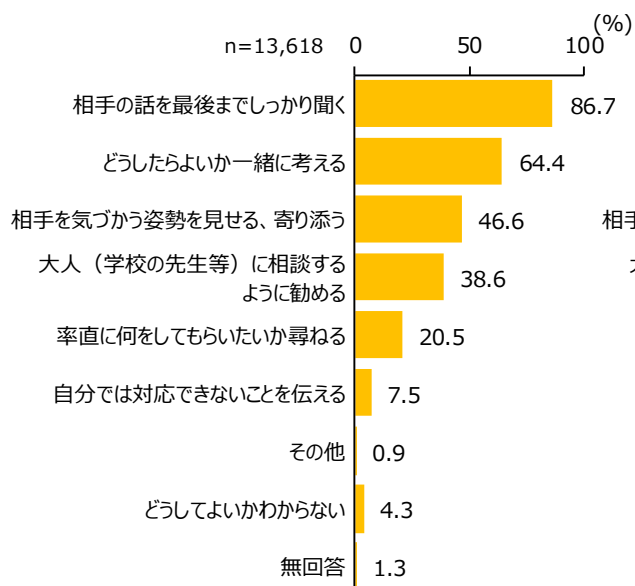


③全日制高校2年生

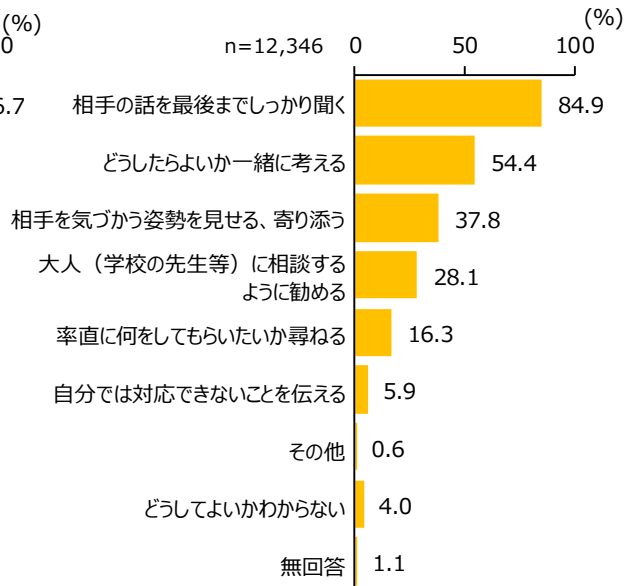


お世話の悩みを相談されたらどのような対応をとるか〔複数回答〕

①中学2年生



②全日制高校2年生



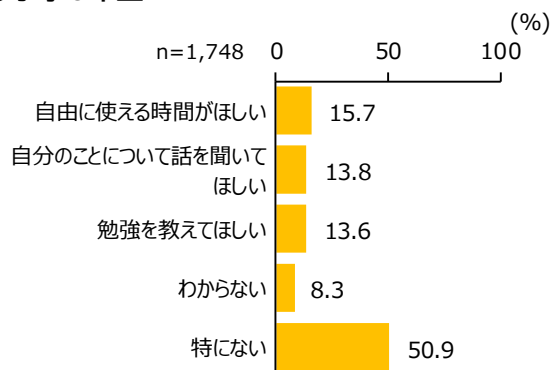


## ・学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援は「自由に使える時間がほしい」が1割以上

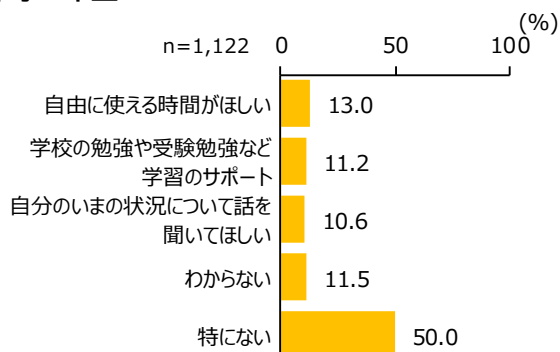
- 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援は、「特にない」が半数前後が多い。
- 具体的な内容をみると、年齢に関わらず、「自由に使える時間がほしい」が多い。

### 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援〔複数回答〕

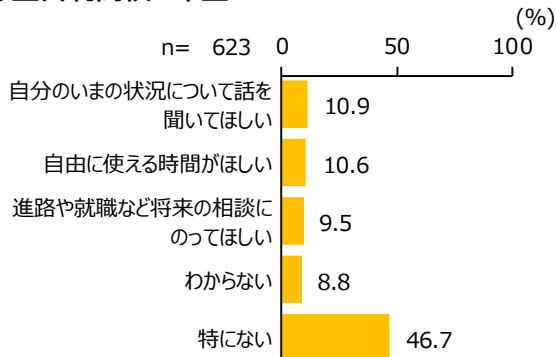
#### ①小学6年生



#### ②中学2年生



#### ③全日制高校2年生

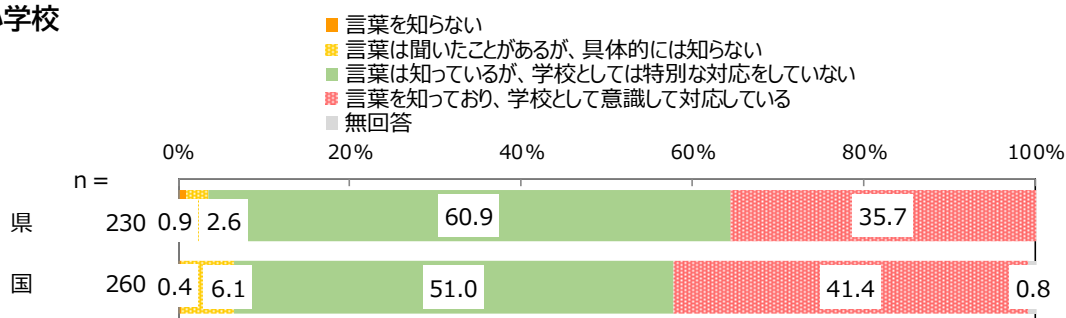


・学校の「ヤングケアラー」という概念の認識は、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」の割合が最も高い

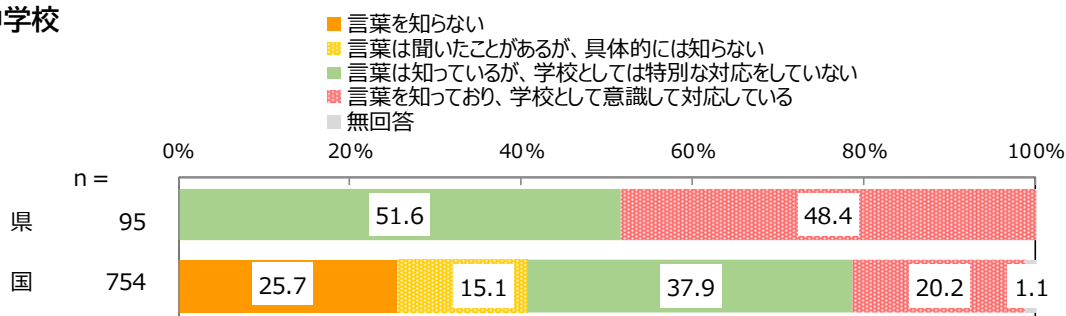
- 学校の「ヤングケアラー」という概念の認識は、いずれも「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が多い。
- また、国の調査と比較して、中学校、全日制高校で「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が多い。

学校の「ヤングケアラー」という概念の認識〔単数回答〕

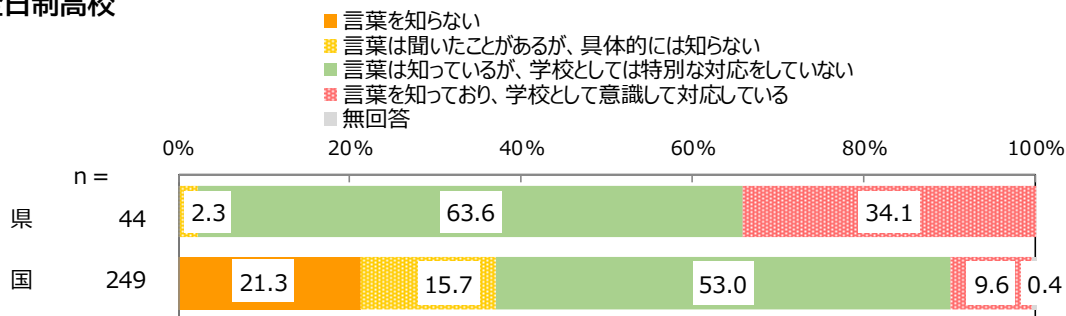
①小学校



②中学校



③全日制高校

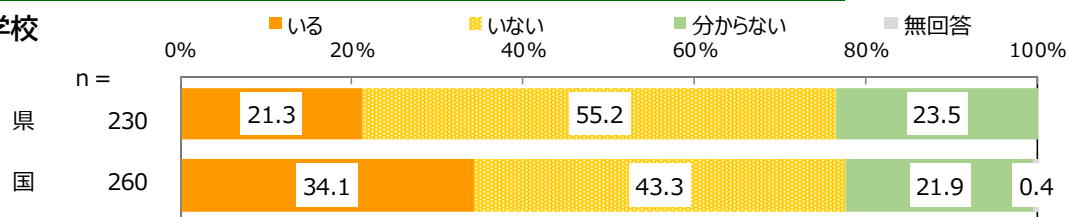


## ・「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した学校は小学校で2割台、中学校で3割台、高校で4割台

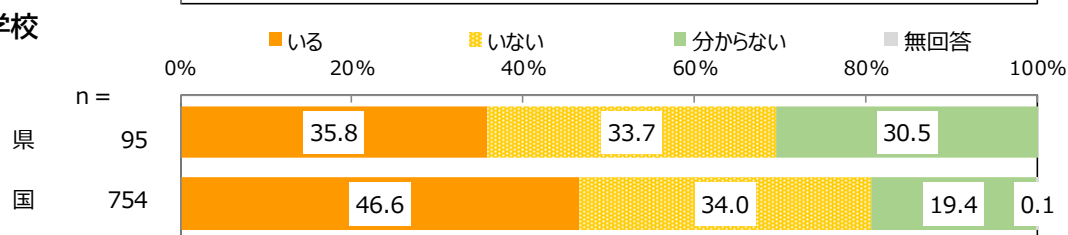
- 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無は、「いる」が小学校で20%台、中学校で30%台、全日制高校で40%台。国の調査と比較すると、「いる」と回答した学校が少ない。
- 「ヤングケアラー」の定義に該当する子どもがいるか分からない理由は、中学校、全日制高校は参考値だが、どの学校も「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が多い

### 学校で「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無〔複数回答〕

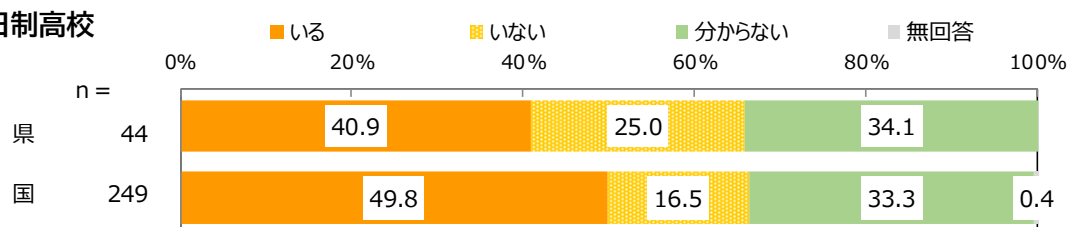
#### ①小学校



#### ②中学校

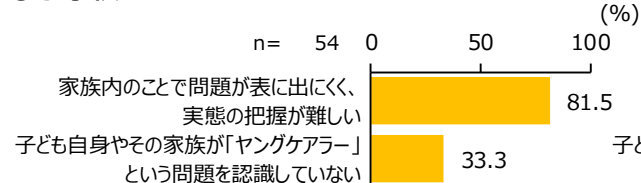


#### ③全日制高校

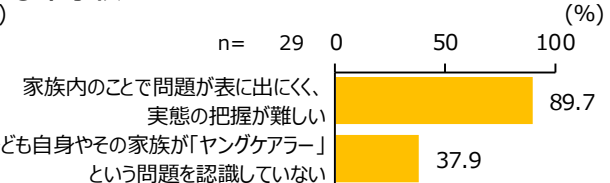


### 学校で「ヤングケアラー」の定義に該当する子どもがいるか分からない理由（上位2項目）〔複数回答〕

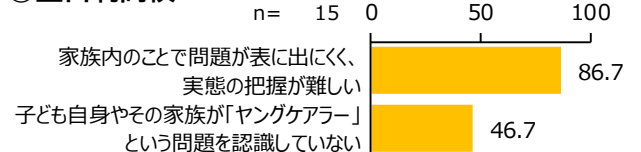
#### ①小学校



#### ②中学校



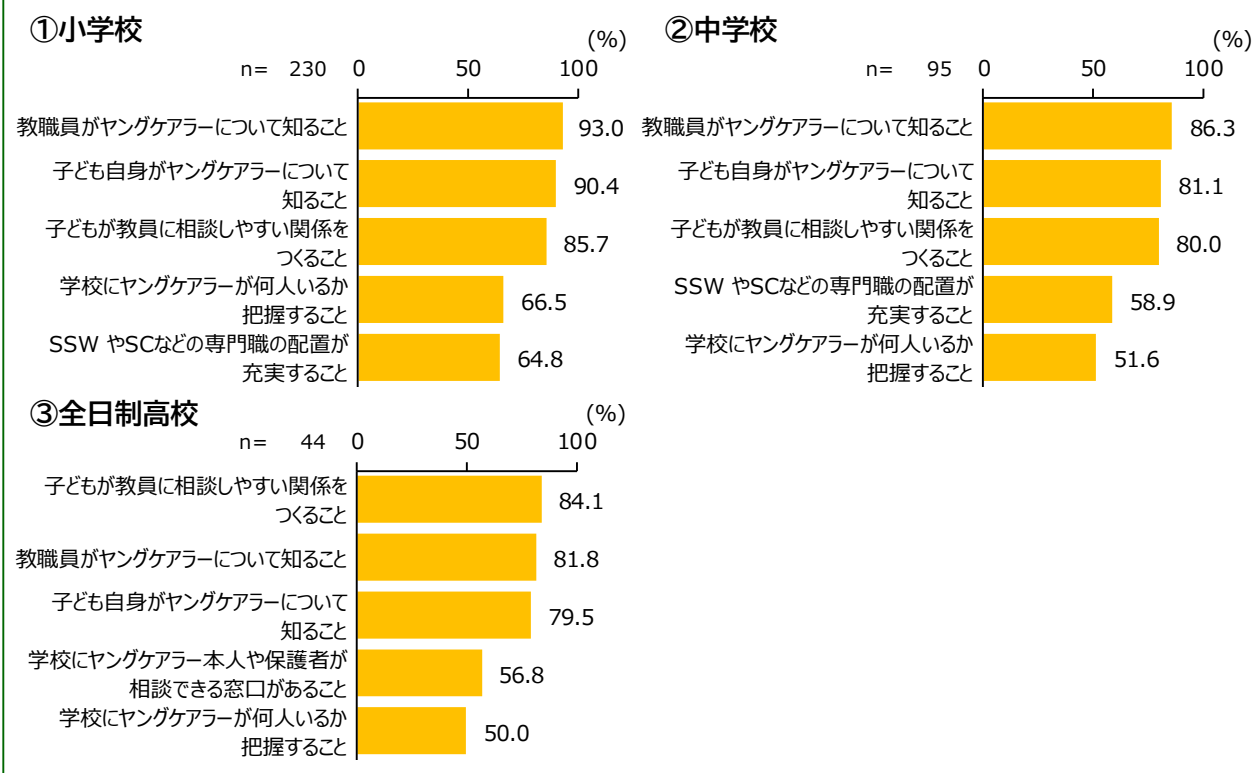
#### ③全日制高校



・ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことは、「教職員・子ども自身がヤングケアラーについて知ること」の割合が多い

- ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことは、「教職員がヤングケアラーについて知ること」、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が多い。

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと【複数回答】



栃木県ヤングケアラー実態調査 報告書（概要版）

令和4年12月

編集：栃木県保健福祉部こども政策課

〒320-8501 栃木県宇都宮市埜田1-1-20

電話 028-623-3067 F A X 028-623-3070